唯物弁証法はあく迄闘ひとられることを必要とする。
対立物の闘争でこそ発展の根本的条件である。
故にこの教材も斯る方法で編纂される。
即ち各問題毎に先づ最初に唯物弁証法的規定（方法論理規定の唯物弁証法的に獲得された理論的規定）その後に観念主義、折衷主義の方法論又は理論といった様に——。
かくて我々は最初に多少概念的に理解された方法、理論を観念主義の方法論及理論を注意深く読み、これを批判することに依ってここに我々が教育され、発展する為の条件たる討論のより具体的に生々と把握することが出来るのである。
然し研究の便宜の為めに所々に説明を交ったところもあるし、特に一章毎に参考書が揚げてある為か、この教材に引用されてある観念主義の方法や理論のみを批判し参考書の内容を批判しただけでは不充分なのであって、ここで獲得した方法や理論は直ちに今日の現実の問題にこれを適用し展開されなければならぬ。即ち研究会に於て討論でせねばならぬ。それでこそ我々がこの問題無産階級運動のすべての問題を真に唯物弁証法的に批判し得る様になるための絶対的条件である。この態度この方法をとらぬところに公式的・観念的な何の役にも立たない唯物弁証法的理論の遊戯における学究の根本的欠陥があるのである。
唯物弁証法的批判克服に対立物を簡単に否定してしまうことではない（これは折衷主義的批判である）対立者の批判、克服は即ち揚棄 aufheben 揚棄されることにならねばならぬ。斯の如きが唯物弁証法の要求たる対立物の全体性的批判である。我々は直ちに之を銘記しなければならない。
だが今や我々は之を成遂げ得る一歩一歩進むことが出来るのである。
この教材それ自体は観念主義、折衷主義の全体性的批判は之を成し遂げしては居らぬ。又我々の必要として居る教材はそれではない。
この教材の目がけて居る所は斯る全体性的を成し得る方向を指示すること、道を誤らずに一歩一歩に踏みしめて行く方向を指示することである。
最後に注意することは斯る教材を大衆的な教育運動の教材にすることは断

財團法人 協調會